

PRIMERGY

B7FY-1431-01



取扱説明書

内蔵 DAT72 オートローダ
(PG-DTA103/PGBDTA103)

はじめに

このたびは、弊社の内蔵 DAT72 オートローダ (PG-DTA103/PGBDTA103) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、内蔵 DAT72 オートローダ (以降、本製品) の取り扱いの基本的なことからについて説明しています。ご使用になる前に、本書およびサーバ本体に添付の「PRIMERGY ドキュメント&ツール CD」内の『ユーザーズガイド』をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2004 年 11 月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について



本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途 (以下「ハイセイフティ用途」という) に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。




本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



| | |
|---|--|
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。 |

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

| | |
|---|--|
|  | で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。 |
|  | ⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。 |
|  | で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。 |

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

| 記号 | 意味 |
|---|---|
|  | お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。 |
|  | ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。 |
| | 参照ページや参照マニュアルを示しています。 |

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

| 製品名称 | 本文中の表記 |
|---|---------------------|
| Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition | Windows Server 2003 |
| Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition | |
| Microsoft® Windows® 2000 Server | Windows 2000 Server |

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

■ 本製品の取り扱いについて

警告

窒息



- ・ 梱包に使用しているビニール袋はお子様がお口にいたり、かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。

感電



- ・ 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちにサーバ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。
- ・ 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。感電・火災の原因となります。
- ・ 本製品をお客様自身で改造しないでください。感電・火災の原因となります。

感電



⚠ 注意



- 本製品を分解したり、解体したりしないでください。
- 本製品は次の環境で動作させたり、保管したりしないでください。
 - 極端な低温環境
 - 極端な高温 / 多湿環境
 - 温湿度変化の激しい環境
 - 磁気の影響を受けやすい場所
 - 衝撃や振動の加わる場所
 - ゴミやほこり（煙草の煙、土埃、排気ガスなど）の多い環境
 - 直射日光のあたる場所
 - 発熱器具のそば
- 寒い場所から暖かい場所に移動したり、室温を急に上げたりした直後は、内部が結露する場合がありますので、使用しないでください。
結露したままお使いになると、本製品やデータカセットを損傷することがあります。大きな温度変化があったときは、1時間以上待ってから電源を入れてください。
- サーバ本体の電源を切るときは、マガジンを取り出し、マガジンおよびデータカセットを専用のケースに入れて保管してください。
データカセットを装置に挿入すると、磁気テープの記録面が露出されます。本状態が長く続くと、記録面へのほこりの付着や傷発生の可能性があり、データカセットが永久的に使用できなくなることがあります。
- ご使用しない場合は、本製品からマガジンを取り出してください。
- マガジンを入れたまま本製品を持ち運ばないでください。
- マガジンを挿入時、無理に押し込まないでください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。
何か異物が入った場合は、お買い求めの販売店または弊社担当保守員にご相談ください。
- 本製品前面の汚れは、柔らかい布でからぶきするか、布に水または中性洗剤を含ませて、軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- サーバ本体の扉を閉めた状態で、ソフトウェア上からの媒体排出を行わないでください。

梱包物の確認

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。
万一足りないものがございましたら、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

- ・ 内蔵 DAT72 オートローダ (本製品)
- ・ 電源分岐ケーブル
- ・ 防塵カバー
- ・ マガジン
- ・ クリーニングカセット
- ・ 保証書
- ・ 取扱説明書 (本書)
- ・ DAT ユニット取扱い注意シート (DAT ユニートを正しくご使用いただくために)

POINT

- ▶ 本製品に装着している「防塵カバー」を、廃棄しないようにご注意ください。

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本取扱説明書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

目次

| | | |
|----------|-------------------------------|-----------|
| 1 | サーバ本体への搭載 | 8 |
| 1.1 | 設置環境の確認 | 9 |
| 1.2 | 各種の設定 | 10 |
| 2 | フロントパネル | 13 |
| 2.1 | LCD 表示 | 14 |
| 3 | データカセット | 15 |
| 3.1 | 使用できるデータカセット | 15 |
| 3.2 | 使用上の注意 | 16 |
| 3.3 | データカセットの寿命 | 16 |
| 4 | マガジン | 17 |
| 4.1 | マガジンへのデータカセットのセット方法 | 17 |
| 4.2 | マガジンの挿入 | 17 |
| 4.3 | マガジンの排出 | 18 |
| 5 | クリーニングについて | 19 |
| 5.1 | 使用できるクリーニングカセット | 19 |
| 5.2 | クリーニングの必要性 | 19 |
| 5.3 | 定期的なクリーニング | 19 |
| 5.4 | クリーニング方法 | 22 |
| 5.5 | クリーニングカセットの交換 | 23 |
| 6 | バックアップ運用上の注意 | 24 |
| 7 | 仕様 | 25 |
| | 付録 A LCD メッセージ一覧 | 26 |

1 サーバ本体への搭載

この章では、サーバ本体への搭載方法について説明しています。

次の手順に従って、サーバ本体に搭載してください。

1 本製品の設定を行います。

「1.2 各種の設定」(P.10)

2 本製品をサーバ本体に搭載し、SCSI ケーブルと電源ケーブルを接続します。

詳細は、サーバ本体に添付の「ドキュメント&ツール CD」内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

電源ケーブルの接続は、「1.2.2 電源ケーブル」(P.11) を参照してください。

3 必要なバックアップソフトウェアやドライバをインストールします。

1.1 設置環境の確認

本製品をサーバ本体に搭載し設置する場合、次の場所は避けてください。

- ・ 湿気やほこり、油煙の多い場所
- ・ 通気性の悪い場所
- ・ 火気のある場所
- ・ 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- ・ 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- ・ 周囲温度が 10 ~ 35 をはずれる場所
- ・ 湿度が 20 ~ 80% をはずれる場所
- ・ 塩害地域
- ・ 腐食性ガスが発生する地域
- ・ 電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- ・ テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- ・ 振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

設置環境条件を次に示します。

| 項目 | | 設置条件 |
|-------|-----|--------------------------|
| 温度 | 動作時 | 10 ~ 35 |
| | 休止時 | 5 ~ 40 |
| 温度勾配 | 動作時 | 10 |
| | 休止時 | 20 |
| 湿度 | 動作時 | 20 ~ 80 % |
| | 休止時 | 10 ~ 90 % |
| 浮遊ほこり | | 0.15mg/m ³ 以下 |

重要

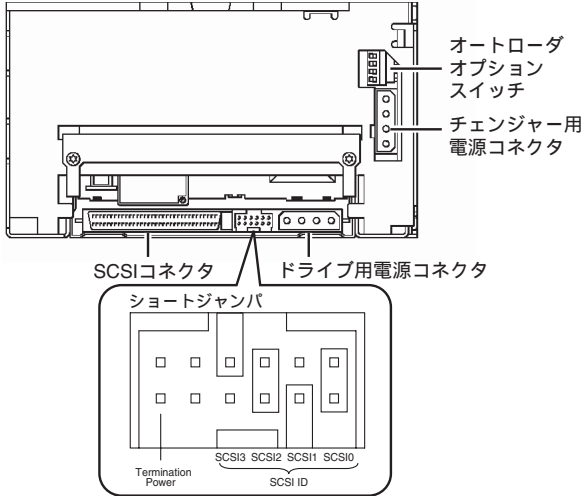
- ▶ 本製品は、上記の環境条件を必ず守り、ほこりの少ない場所で使用してください。

1.2 各種の設定

サーバ本体に本製品を搭載する場合、SCSI-ID 番号の設定が必要です。
 なお、その他のスイッチ設定は変更しないでください。

1.2.1 SCSI-ID の設定

本製品の SCSI-ID を設定します。ご購入時は、「5」に設定されています。
 SCSI-ID 番号は、本製品背面（下図）のショートジャンパで設定できます。



| SCSI-ID 番号 | ショートジャンパ | | | |
|------------|----------|-------|-------|-------|
| | SCSI3 | SCSI2 | SCSI1 | SCSI0 |
| 0 | オープン | オープン | オープン | オープン |
| 1 | オープン | オープン | オープン | ショート |
| 2 | オープン | オープン | ショート | オープン |
| 3 | オープン | オープン | ショート | ショート |
| 4 | オープン | ショート | オープン | オープン |
| 5(*) | オープン | ショート | オープン | ショート |
| 6 | オープン | ショート | ショート | オープン |
| 7 | オープン | ショート | ショート | ショート |
| 8 | ショート | オープン | オープン | オープン |
| 9 | ショート | オープン | オープン | ショート |
| 10 | ショート | オープン | ショート | オープン |
| 11 | ショート | オープン | ショート | ショート |
| 12 | ショート | ショート | オープン | オープン |
| 13 | ショート | ショート | オープン | ショート |
| 14 | ショート | ショート | ショート | オープン |
| 15 | ショート | ショート | ショート | ショート |

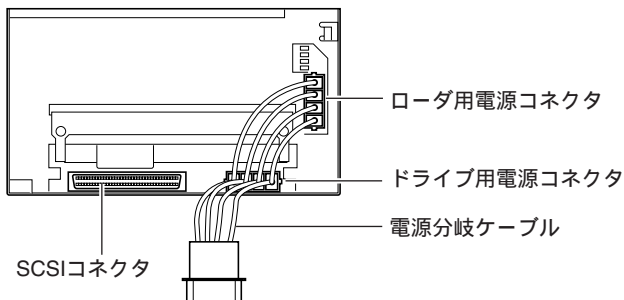
*) ご購入時の設定

1.2.2 電源ケーブル

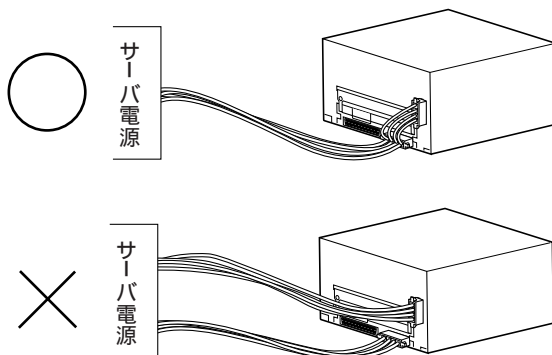
重要

- ▶ 本製品をサーバ本体に搭載する前に、サーバ本体の電源を必ず切ってください。搭載方法の詳細は、サーバ本体に添付のドキュメント&ツールCD内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

電源を接続するときは、添付の電源分岐ケーブルを使用してください。



添付の電源分岐ケーブルがない場合などは、次のように同じ電源ラインを使用してください。



1.2.3 デバイスドライバ

ARCServer の場合、本製品のドライバのインストールは必要ありません。

Windows Server 2003 および Windows 2000 Server のデバイスマネージャ上で、本製品の認識状態が「？」および「不明なチェンジャデバイス」と表示されますが、問題ありませんので、そのまま使用してください。

■ Windows Server 2003 の場合

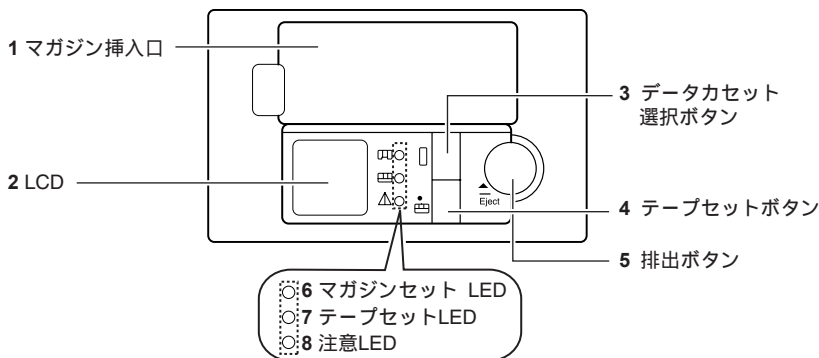
- 1 Administrator 権限で Windows Server 2003 にログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システム」の順にクリックします。
- 3 「ハードウェア」のタブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 「その他のデバイス」をダブルクリックします。
「?HP DAT72X6 SCSI Sequential Device」と表示されます。
- 5 同様に、上記の手順 4 において、「メディアチェンジャ」をダブルクリックします。
「不明なチェンジャデバイス」と表示されます。

■ Windows 2000 Server の場合

- 1 Administrator 権限で Windows 2000 Server にログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システム」の順にクリックします。
- 3 「ハードウェア」のタブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 「その他のデバイス」をダブルクリックします。
「?HP DAT72X6 SCSI Sequential Device」と表示されます。
- 5 同様に、上記の手順 4 において、「メディアチェンジャ」をダブルクリックします。
「不明なチェンジャデバイス」と表示されます。

2 フロントパネル

この章では、フロントパネルの各部の名称と働きについて説明しています。



| 名称 | 機能 |
|--------------------------------|--|
| 1 マガジン挿入口 | マガジンの挿入、および取出し口です。 |
| 2 LCD | 「2.1 LCD 表示」(P.14) を参照してください。 |
| 3 データカセット選択ボタン ^(*1) | マガジンがセットされているときにこのボタンを押すと、マガジン内のデータカセットを選択することができます。ボタンを何回か押すと、マガジン内で使用可能なデータカセットが次々と LCD 上に表示されます。 |
| 4 テープセットボタン ^(*1) | このボタンを押すと、選択されたデータカセットをマガジンからドライブにセットします。 |
| 5 排出ボタン ^(*2) | このボタンを押すと、排出処理が開始されます。現在セットされているデータカセットをドライブから排出し、チェンジャメカニズムによってマガジンに戻します。そのあと、マガジンが排出されます。 |
| 6 マガジンセット LED | 点灯 (緑) : オートローダ内にマガジンがセットされています。 点滅 (緑) : マガジンを設定中、チェック中、または排出中です。 |
| 7 テープセット LED | 点灯 (緑) : ドライブ内にデータカセットがセットされています。 点滅 (緑) : データの読み込み、または書き込み中です。 データカセットのセット中・排出中は、ゆっくりと点滅します。 |
| 8 注意 LED ^(*3) | 点灯 (黄) : ハードウェアエラーが発生しました。 点滅 (黄) : ユーザレベルで対応できるエラーが発生しました。 エラーの原因 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドのクリーニングが必要な場合 ・使用のテープが寿命に近づいた場合 ・オートローダ内にテープはセットされているが、マガジンがセットされていない場合 ・フロントパネルのドアが開いている場合 |

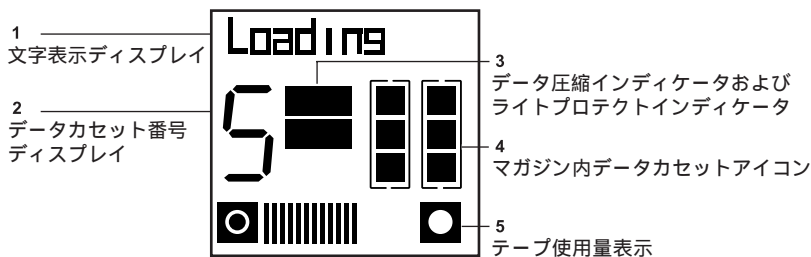
*1) ARCServe をご使用の場合は、本ボタンの操作を行わないでください。

*2) ARCServe をご使用し、本製品が動作中の場合、本ボタンの操作を行わないでください。

*3) 注意 LED が点灯もしくは点滅している場合は、LCD の上段のメッセージを参照してください。対処方法は、「付録 A LCD メッセージ一覧」(P.26) を参照してください。

2.1 LCD 表示

LCD は、5 つの表示領域に分かれており、オートローダのステータスに関する情報が表示されます。



POINT

- ▶ 上記は、どの場所にどのような表示がされるのかを示す一例です。実際には、すべての表示領域に同時に表示されることはありません。

| 表示位置 | 表示内容 |
|----------------------------------|--|
| 1 文字表示ディスプレイ | オートローダの動作状況やエラーの状態が表示されます。表示されるメッセージ詳細については、「付録 A LCD メッセージ一覧」(P.26) を参照ください。 |
| 2 データカセット番号ディスプレイ | 現在ドライブにセットされているデータカセットの番号が表示されます。また、データカセット選択ボタンを押すと、選択されたデータカセット番号が表示されます。 |
| 3 データ圧縮インディケータおよびライトプロテクトインディケータ | DC : オートローダが圧縮モードの状態である場合に、表示されます。 WP : ドライブにセットされたデータカセットがライトプロテクト状態である場合に表示されます。詳細は、「書き込み保護」(P.16) を参照してください。 |
| 4 マガジン内データカセットアイコン | マガジンスロットにデータカセットがセットされている場合、そのスロット番号が表示されます。 |
| 5 テープ使用量表示 | 現在のパーティションにおけるテープ使用量が表示されます。縦のラインがたくさん表示されているほど、多くのテープ領域が使用されていることを表します。 |

3 データカセット

この章では、本製品で使用できるデータカセットについて説明しています。

3.1 使用できるデータカセット

本製品には、次のデータカセットをお使いください。

| 品名 | 商品番号 | 記憶容量 ^(*) | 出荷単位 |
|---------------------|---------|---------------------|------|
| データカセット DAT CT36G | 0121210 | 36GB | 5 巻 |
| データカセット DAT CT20G | 0121190 | 20GB | 5 巻 |
| データカセット DAT CT12000 | 0121180 | 12GB | 5 巻 |

*) 記憶容量は、1GB = 1000³byte 換算です。

POINT

- ▶ CT1300、CT2000 (DDS1 対応) および CT4000 (DDS2 対応) のテープは使用できません。
- ▶ 記録容量は、データ圧縮機能を使わない場合の値です。データ圧縮時に記憶できる容量は、データにより異なります。

3.2 使用上の注意

- **使用カセット**

上記以外のデータカセットでの退避 / 復元は、装置または媒体に悪影響を及ぼす可能性がありますので使用しないでください。

- **使用環境**

「1.1 設置環境の確認」(P.9)に記載されている温度 / 湿度条件で、「安全上のご注意」(P.4)をご確認の上、使用してください。

- **保管環境**

次の環境で、「安全上のご注意」(P.4)をご確認の上、専用ケースに入れ保管してください。

温度 : 5 ~ 32

湿度 : 20 ~ 60% (ただし結露しない場所)

- **書き込み保護**

データカセットのデータを保護 (ライトプロテクト) するときは、下図 (丸囲み) のタブをスライドさせ、開いてください。



3.3 データカセットの寿命

データカセットは消耗品です。消耗した状態で使い続けると、ヘッドに悪影響を及ぼし、読み書きができなくなったり、装置が故障する原因となります。

お使いになる環境 (温度、湿度、ほこりなど) や装置の動作状況により異なりますが、75 回の使用、または半年を目安に、定期的に交換してください。

4 マガジン

この章では、本製品のマガジンについて説明しています。
本製品には、次のマガジンをお使いください。

| 品名 | 商品番号 |
|----------------|----------|
| DDS オートローダマガジン | 00611510 |

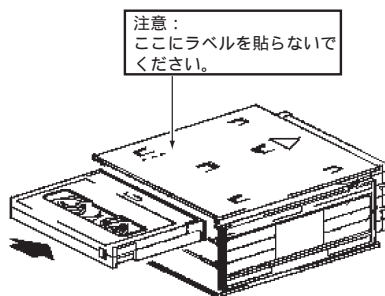
4.1 マガジンへのデータカセットのセット方法

データカセットを任意のマガジンスロットに、平行にゆっくり挿入します。

■ 使用上の注意

データカセットとマガジンへの貼付ラベルについて、次の点に注意してご使用ください。

- ・ラベル貼付位置にしっかりと貼られていること。
- ・ラベルがはがれた状態で使用しないこと。
- ・ラベルが貼り付け位置からはみ出している状態で使用しないこと。
- ・データカセットの端の部分でラベルが折れ曲がった状態で使用しないこと。
- ・ラベルの上に別のラベルを貼った状態（二重貼り）で使用しないこと。



4.2 マガジンの挿入

マガジンは次の手順で、本製品に挿入します。

- 1 マガジン LED とテープセット LED が消灯していることを確認します。
すでにマガジンが挿入されている場合は、マガジンセット LED が点灯します。
- 2 マガジン上部の矢印を挿入口に向け、平行にゆっくり挿入します。
マガジンを途中まで挿入すると、自動的にオートローダ装置内部に引き込まれ、本製品はどのマガジンスロットにデータカセットがセットされているかをチェックします（この処理に約 30 秒かかります）。チェック中は LED は点滅しています。チェックが完了すると、マガジンセット LED が点滅から点灯に変わります。

■ Windows 2000 Server 使用時の注意

次のようなエラーが発生した場合には、マガジンをセットしてサーバを再起動するか、「Removable Storage サービスを再起動方法」(P.18)に従って、Removable Storage サービスを再起動してください。

- Windows 2000 Server ではマガジンをセットせずに起動した場合、次のエラーが発生しオートチェンジャが正常に認識されません。Windows 2000 Server 起動前にマガジンをセットしてください。

****管理者警告****

デバイスChanger0の構成に失敗しました。詳細についてはイベントログを参照して下さい。

- イベントビューアでシステムログを確認すると、Removable Storage Service が次の内容のエラーとなります。

自動構成ライブラリユニットChanger0を構成できません。ライブラリユニットの現在のセットアップは、自動構成をサポートしていません。可能な場合、ライブラリの現在のセットアップを変更して自動構成ガイドラインに従うか、または手動でデバイスを構成してください。

■ Removable Storage サービスを再起動方法

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。
サービス一覧が表示されます。
- 2 「Removable Storage」をダブルクリックします。
- 3 「停止」ボタンをクリックします。
- 4 本製品にマガジンを挿入します。
- 5 「開始」ボタンをクリックします。

4.3 マガジンの排出

排出ボタンを押すと、マガジンが排出されます。

「2 フロントパネル」(P.13)

1 週間以上使用しない場合は、マガジンを排出させ、マガジンおよびデータカセットを専用のケースに入れて保管してください。

なお、ARCserve 上でのマガジン排出はできません。

5 クリーニングについて

この章では、本製品のクリーニングについて説明しています。

5.1 使用できるクリーニングカセット

本製品には次のクリーニングカセットをお使いください。

| 品名 | 商品番号 | 出荷単位 |
|------------------|---------|------|
| クリーニングカセット DAT-N | 0121170 | 1 巻 |

5.2 クリーニングの必要性

本製品は、磁気ヘッドによるデータの読み書きを行っており、ほこりやゴミあるいはデータカセットのテープから発生する磁性粉にてヘッドが汚れていると、次のような悪影響を及ぼすこととなります。クリーニングカセットによる定期的なクリーニングを必ず行ってください。

- ・データの読み書きが正常に行われません。
ヘッドに汚れがこびり付くと、永久的に使用できなくなります。
- ・データカセットの磁気テープの記録面への汚れの付着、傷の発生により、永久的に使用できなくなります。
- ・データカセットの寿命（使用回数）が減少します。

5.3 定期的なクリーニング

次の場合には、必ずクリーニングを行ってください。

- ・本製品が未使用の場合でも、1 か月に 1 回。
- ・本製品使用時、1 週間に 1 回（毎日、1 日当たりに 4 時間以上ご使用になる場合は、使用 25 時間ごとに 1 回）。
- ・新品データカセット挿入前。
- ・LCD に「Clean Me」が表示され、注意 LED が点滅の場合。

5.3.1 設定例

例では、ARCserve で、マガジンの「Slot6」にセットしたクリーニング媒体を使用し、毎週月曜の朝 9 時にクリーニングを行う設定をします（Windows 2000 Server での設定方法）。設定は、「クリーニング媒体の設定」、「デバイスの設定確認」、「スケジュールの設定」の順に行ってください。

なお、Windows 2003 Server でも同様な手順で設定できます。

■ クリーニング媒体の設定

- 1 Administrator 権限で Windows 2000 Server にログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Computer Associates」→「BrightStor」→「ARCserve Backup」→「マネージャ」の順にクリックします。
- 3 メニューの「設定」→「デバイス環境設定」の順にクリックします。
「デバイス環境設定へようこそ。」画面が表示されます。
- 4 [次へ] をクリックします。
「オプション」指定画面が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。
「デバイス環境設定を実行するため、・・・(略)・・・。この処理を続行しますか？」画面が表示されます。
- 6 [はい] をクリックします。
「デバイスの割り当て」画面が表示されます。
- 7 「ライブラリデバイス」の枠内に次のような2つのドライブ表示があることを確認し、[次へ] をクリックします。

| | | | | |
|----|-----------|-----|---|---------|
| HP | 36 / 72GB | DAT | 6 | AL*. ** |
| HP | 36 / 72GB | DAT | 6 | AL*. ** |

POINT

- ▶ 2つのドライブ表示がされない場合は、「自動設定」または「利用可能なデバイス」の枠内に表示されているドライブをクリックし、「割り当て」をクリックしてください。

「クリーニングテープの割り当て」画面が表示されます。

- 8 「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」画面が表示されます。
 1. テープクリーニングスロットをクリックします。
 2. クリーニングスロット番号に「6」を指定します。
 3. [OK] をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックします。
「拡張設定」画面が表示されます。
- 10 [次へ] をクリックします。
「サマリ」画面が表示されます。
- 11 [完了] をクリックします。
「デバイス環境設定が完了しました。」画面が表示されます。

- 12 [終了] をクリックします。
「デバイス環境設定を終了しますか？」画面が表示されます。
- 13 [はい] をクリックします。

■ デバイス設定の確認

- 1 メニューの「クイックスタート」→「デバイス管理」の順にクリックします。
- 2 メニューの「ファイル」→「テープエンジン」→「起動」の順にクリックします。
- 3 「**HP 36/72GB DAT 6 AL**」をクリックします。
画面右下のプロパティ画面内に [デバイス設定] の詳細情報が表示されます。
・デバイス：2 = ボード：2、バス：0、SCSI ID：5、LUN：1 の場合、「ボード番号 = 2、SCSI ID 番号 = 5、LUN 番号 = 1」と各番号を書き留めてください。
- 4 「**HP 36/72GB DAT 6 AL**」をダブルクリックします。
その直下に「HP 36/72GB DAT 6 AL」が表示されます。
- 5 手順4 で表示された「**HP 36/72GB DAT 6 AL**」をクリックします。
手順3 と同様に、[デバイス設定] の詳細情報が表示されますので、各番号を書き留めてください。

■ スケジュールの設定

- 1 メニューの「ウィザード」→「ジョブスケジューラ ウィザード」の順にクリックします。
[ジョブ スケジューラ ウィザードへようこそ]画面が表示されます。
- 2 [次へ] をクリックします。
[コマンド]設定画面が表示されます。
- 3 “実行するコマンド：” に、[▼] をクリックし、プルダウンメニューより、「**ca_devmgr -clean**」をクリックします。
- 4 “使用するパラメータ：” に「**■ デバイス設定の確認**」(→ P.21) の手順3、5 で書き留めた各番号を入力します。

例：251250 (各数字の間には、スペース (空白) が必要です)

→ 手順5の各番号 (ボード番号、SCSI ID番号、LUN番号)

→ 手順3の各番号 (ボード番号、SCSI ID番号、LUN番号)

- 5 [次へ] をクリックします。
「セキュリティ」画面が表示されます。

- 6 パソコン起動時の“ユーザ名” (administrator)、“パスワード” (任意)を入力します。
- 7 [次へ] をクリックします。
「スケジュール」画面が表示されます。

 **POINT**

- ▶ スケジュールの開始時間は、バックアップジョブやその他のジョブの実行と重ならないように設定してください。

- 8 「スケジュール」をクリックします。
 1. 開始日時の [] をクリックします。
カレンダーが表示されます。
 2. 次の月曜日にあたる日をクリックします。
 3. 時刻を 9:00:00 にセットします。
 4. 繰り返し方法の「 」をクリックし、「毎週第 X 曜日」をクリック (選択) し、月にのみ「 」をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックします。
「サマリ」画面が表示されます。
- 10 「サブミット」をクリックします。
- 11 [OK] をクリックします。

5.4 クリーニング方法

フロントパネル上の操作によるクリーニング方法について説明します。

- 1 マガジンの任意スロットにクリーニングカセットをセットし、マガジンを挿入します。
マガジンの挿入方法は、「4.2 マガジンの挿入」(P.17) を参照してください。
- 2 「選択」ボタンを押して、クリーニングカセットをセットしたスロットを選択します。
- 3 「セット」ボタンを押して、クリーニングカセットをドライブにセットします。
クリーニングが開始され、LCD 上に「Cleaning」が表示されます。クリーニングが終了すると、クリーニングカセットは自動的にマガジンに戻されます。

5.5 クリーニングカセットの交換

クリーニングカセットを本製品でのみ使用した場合、1巻あたりの使用可能回数は約50回です。クリーニング使用時には、使用状況（実施日、回数）を管理するため、クリーニングカセットのラベルに日付を記入してください。

次の場合にも、新しいクリーニングカセットに交換してください。

- ・ LCD上に「Clean Fall」と表示された場合
- ・ 右側のリールにすべてテープが巻き取られている場合（再利用はできません）

6 バックアップ運用上の注意

この章では、本製品のバックアップ運用上の注意事項について説明しています。

- ARCserve をご使用の場合、本製品は、圧縮状態で動作します。
- データの圧縮率は、目安として2倍程度としておりますが、データの内容により圧縮率は変化します。ソフトウェアにより圧縮処理されたデータでは、本製品による圧縮効果は期待できません。
- 次の要因により、バックアップ性能および1巻あたりに記録できるバックアップ容量が変化します（データカセット DAT CT 36G を使用した場合、最小容量 23.4GB のバックアップとなる可能性があります）。
 - ご使用されるデータカセットの記録面の状態（消耗、汚れなど）
 - 本製品のヘッドの汚れ状態
 - データの圧縮率
 - サーバの負荷状況
- 毎日、同一データカセット1巻によるバックアップ運用では、バックアップに失敗した場合、全データが失われる危険があります。複数のデータカセットによるバックアップ運用を行うことにより、トラブル発生時の被害を最小限にできます。
例）曜日ごとのデータカセットを準備しバックアップ運用する。
- バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に「データの検査」の実行を指定できるものがあります。この指定を行うとバックアップ終了後に媒体に書き込んだデータを読み出して、書き込み内容の検査が行われますので、信頼性は高まります。ご使用のデータカセットが寿命に近い場合には、本検査を行ってください。ただし、バックアップ業務に要する時間が長くなったり、媒体の使用回数が増えることによる媒体の寿命低下、といった短所もありますので、留意してください。
- バックアップ処理やリストア処理中に媒体エラー（メディアエラー）が発生することがありますが、この発生要因は次のいずれかが原因となっています。
 - ヘッドが汚れ、データが読みにくくなった。
 - テープ媒体が損傷 / 磨耗するなどしてデータが読みにくくなった。前者の場合には、テープを新品に交換しても効果はありません。したがって、媒体エラーが発生した場合には、次の手順で対処してください。
 1. テープ装置のクリーニングを3回行う。
 2. エラーが発生したテープ媒体を装着して、処理を行う。
 3. 再度エラーが発生した場合には、媒体が損傷 / 磨耗していると思われるため、新品のテープと交換する。
- オートローダの装置内部には DAT ドライブがあり、このドライブ内にデータカセットが入った状態で電源が切断されるとデータが保証できず、媒体エラーとなることがあります。
- ARCserve では設定により、テープエンジン起動時のテープのインベントリ処理実行を省略することができます。本機能は次の点に注意して設定してください。
クイック初期化を有効にした場合
 - テープエンジン起動時のテープの読み込み処理が省略され、媒体の消耗を少なくすることができます。

- テープを入れ替えた場合はマウント処理を手動で実行する必要があり運用上の注意が必要です。

7 仕様

この章では、本製品の仕様を示しています。

| 項目 | 内容 |
|----------------|--------------------------|
| 品名 | 内蔵 DAT72 オートローダ |
| 型名 | PG-DTA103 / PGBDTA103 |
| データ記憶容量（非圧縮） | 36G × 6 巻 |
| 実効データ転送速度（非圧縮） | 最大 3.0MB/s |
| データ・フォーマット | DDS- 3、DDS- 4、DAT72 |
| インタフェース | Ultra Wide SCSI (LVD/SE) |
| 質量 | 2.0kg |
| 消費電力 | 最大 29.2W |
| 発熱量 | 最大 105.12kJ/h |
| 最高湿球温度 | 26 |

環境条件は、「1.1 設置環境の確認」(P.9)を参照してください。

付録 A LCD メッセージ一覧

LCD に表示されるメッセージについて説明します。

■ LCD メッセージ一覧

ハードウェアエラー番号 (Error X) の詳細については、「ハードウェアエラー番号の詳細」(P.30) を参照してください。

メッセージの種類

E : エラーメッセージ

I : インフォメーションメッセージ (情報表示)

S : ステータスメッセージ (動作状態の表示)

| LCD メッセージ | 種類 | 注意 LED の動作 | 意味 |
|-------------------------------|----|------------|---|
| At BOD | E | 点灯 | テープ走行中に予期しない BOD (Beginning of Data) を検出しました。テープ位置は現在 BOD です。 |
| At EOD | E | 点灯 | リードまたはテープ走行中に予期しない EOD (End of Data) を検出しました。テープ位置は現在 EOD です。 |
| Bad Media | E | 点滅 | テープが DDS フォーマットでないため、リードまたはテープ走行動作に失敗しました。テープを排出し、DDS3/DDS4/DAT72 テープを使用してください。 |
| Cannot Write Non-MRS Tape | E | 点滅 | DDS3/DDS4/DAT72 テープでないテープに対してライトまたはテープ消去動作を実行しようとして、データカセットを取り出し、DDS3/DDS4/DAT72 テープに交換してください。 |
| Clean fail:Check CleaningTape | E | 点滅 | クリーニングカセットが寿命に達しているためクリーニングに失敗しました。新しいクリーニングカセットを使用してください。 |
| Clean Me | E | 点滅 | リードまたはライト時に高いエラーレートを検出しました。使用可能なクリーニングカセットを挿入してテープヘッドを清掃してください。 |
| Cleaning | S | - | ドライブにクリーニングカセットがロードされました。 |
| Close Door | E | 点滅 | フロントパネルドアが開いているため、オートローダが動作できません。これはマガジンが完全に挿入されていないときなどに起こります。マガジンを完全に挿入するか抜いてください。また、異物などでフロントパネルドアが閉まりきっていないか確認してください。 |
| Drive Comms Error | E | 点灯 | ドライブとローダメカニズムとの通信ができません。ローダ用電源、ドライブ用電源 (「1.2.2 電源ケーブル」(P.11) を参照) が正しく接続されているか確認してください。問題が解決しない場合は、弊社担当保守員に連絡してください。 |
| Drive fault | E | - | ドライブが内部エラーを検出しました。 |

| LCD メッセージ | 種類 | 注意 LED の動作 | 意味 |
|----------------------------|----|------------|--|
| Eject fail | E | 点滅 | 排出ボタンが押された後または排出コマンドの後、排出に失敗しました。 |
| Eject Mag | I | - | 排出ボタンを押したときに表示されます。 |
| Erase | S | - | テープのデータを消去しています。 DAT72 テープでは、テープ先頭から終端までのテープ消去動作にて、およそ3時間30分要します。 |
| Error X | E | 点滅 | ハードウェアエラーです。X はエラーの種類を表します。詳細は、「ハードウェアエラー番号の詳細」(P.30)を参照してください。排出ボタンを押し、カセットとマガジンを取り出してください。問題が解決しない場合は、X の値を記録して弊社担当保守員に連絡してください。 |
| Format | S | - | 1 つまたは2 つのパーティションを作成中、または2パーティションのテープのパーティションの大きさを変更しています。 |
| Insert Mag | S | - | マガジンを挿入してください。 |
| Load Fail: Try New Tape | E | 点滅 | バックアップソフト上からの挿入動作に失敗したか、挿入動作またはパーティション変更動作にて、テープのシステム領域の読取りに失敗しました。新しいデータカセットを使用してください。 |
| Load Fail: Press Eject | E | 点滅 | バックアップソフト上からの挿入動作に失敗したか、挿入動作またはパーティション変更動作にて、テープのシステム領域の読取りに失敗しました。排出ボタンを押ししてください。 |
| Load Lock | I | - | フロントパネル上からの手動による挿入動作はできません。バックアップソフト上から挿入動作を試みてください。 |
| Load Tape | I | - | テープセットボタンを押したときに表示されます。 |
| Loading | S | - | マガジンからドライブヘデータカセットを移動しているか、ドライブがデータカセットをロードしています。 |
| Locate | S | - | ホストから指定されたテープ位置に移動中です。 |
| Mag Check | S | - | オートローダはマガジンのどのスロットにテープが挿入されているのかを確認しています。 |
| Mag Eject | S | - | マガジンを排出しています。 |
| Mag Loaded | S | - | オートローダにマガジンが挿入されマガジンのチェックが完了しました。 |
| Media Removal Prevented | E | 点灯 | バックアップソフト上、手動での排出禁止動作が行われた後、手動による排出を実行しようとした。バックアップソフト上、排出許可動作を行うか、排出動作を行ってください。または、オートチェンジャをリセットまたは再起動してからもう一度やり直してください。 |
| No EODmark | E | 点滅 | 前回のバックアップ処理中に、電源を切断したか、動作を中止した可能性があります。 |

| LCD メッセージ | 種類 | 注意 LED の動作 | 意味 |
|---------------------------------|----|------------|---|
| Partition | S | - | 2パーティション・テープで別のパーティションに移動中です。 |
| Partition 1 too large | E | 点灯 | パーティション 1 に指定されたサイズが大きすぎるためテープのフォーマットに失敗しました。パーティション 1 のサイズを小さくするか、可能な場合は容量の大きいテープを使用して下さい。 |
| Press Eject | I | - | マガジンの挿入 / 排出中にローダ機構部に問題が発生した場合に表示されます。排出ボタンを押してください。 |
| Read | S | - | テープからデータを読んでいます。 |
| Read Fail | E | 点滅 | リードに失敗しました。再度、データカセットを入れ直して、リードを行ってください。 |
| Ready xxxx | S | - | ドライブにデータカセットが挿入されました。(xxxx はカセット種別を表します。) |
| Rewind | S | - | テープをパーティション先頭まで巻き戻しています。 |
| SCSI Error | E | 点灯 | SCSI コマンドエラーが検出されました。SCSI インタフェースの接続を確認しやり直してください。 |
| Search << | S | - | ドライブは record, filemark, setmark, BOD (Beginning of Data) をテープの先頭方向に向かって検索中です。 |
| Search >> | S | - | ドライブは recode, filemark, setmark, EOD (End of Data) をテープの終端方向に向かって検索中です。 |
| Select Lock | I | - | バックアップソフト上、手動でのデータカセット選択操作の禁止動作が行われた後、手動による選択を実行しようとした。バックアップソフト上からデータカセット選択操作を試みてください。 |
| Select Tape | I | - | データカセット選択ボタンを押して離れた後の短い間表示されます。 |
| Self Test | S | - | 電源投入後の自己診断を実行中です。 |
| SemiLoaded | S | - | カセットはドライブ内にありますがロードされていません。(テープはデータカセットから引き出されていません)。再度、データカセットを入れ直してください。 |
| Stray Tape: Insert Empty Mag | I | - | カセットがドライブ内にありますがマガジンが挿入されていません。カセットを回収するために空のマガジンを挿入してください。 |
| Tape Fault | E | 点滅 | ドライブ内のテープに欠陥があります。新しいデータカセットを使用してください。またそれが DDS3/DDS4/ DAT72 テープであることを確認してください。 |
| Tape Full | E | 点灯 | リード、ライト、テープ走行中に予期せぬ EOP (End of Partition) を検出しました。リード時には次のテープにデータが続くことを意味する場合もあります。 |

| LCD メッセージ | 種類 | 注意 LED の動作 | 意味 |
|----------------------------------|----|------------|---|
| Tape has DC data | E | 点灯 | ドライブが圧縮データを伸長するように設定されていないとき、READ コマンドで圧縮されたデータを検出しました。ホストがデータ圧縮を無効にしているかコンフィグレーションスイッチ 2 がオフになっているため、ホストがドライブの設定を変更できない可能性があります。ホストがデータ圧縮を無効にしていないことを確認してください。装置底面のコンフィグレーションスイッチ 2 がオンであることを確認してください。 |
| Tape Position Lost | E | 点灯 | ライト、リード、テープ走行、巻戻し動作が完了できませんでした。テープが不正なグループに位置していません。データカセットを入れ直して、再試行してください。 |
| Tape Stuck | E | 点滅 | カセットがドライブ内で動けなくなりました。弊社担当保守員に連絡してください。 |
| Unloading | S | - | ドライブがテープをアンロードしているがドライブからマガジンへ移動中です。 |
| Worm Media | E | 点滅 | 書き込み時のエラー率が高くなっています。テープが寿命に近づいていると思われます。新しいデータカセットに必要なデータをコピーして下さい。古いデータカセットは廃棄してください。 |
| Write x.y | S | - | テープにデータを書き込み中です。"x.y:1" は電源投入後または圧縮率データがクリアされた後からの累積圧縮率を表します。例えば、"Write 2.1" は圧縮比が 2.1 倍であることを意味します。圧縮率は電源投入後、約 1MB のデータを書き込んだ後でないと表示されません。 |
| Write >10 | S | - | 上記の Write x.y と同様内容であり、圧縮比が 10 倍以上であることを意味します。 |
| Write Fail | E | 点滅 | ライト、テープ消去動作に失敗しました。新しいデータカセットを使用して下さい。 |
| Write Fail:Clean or Use New Tape | E | 点滅 | テープに書き込めません。テープが使い古されているか損傷している可能性があります。使用可能なクリーニングカセットを挿入してテープヘッドをクリーニングするか、新しいデータカセットを使用してください。 |
| Write Protected Tape | E | 点滅 | 書き込み禁止のカセットにライト、テープ消去動作を実行しようとした。カセットを取り出し書き込み可能にしてください。 |

■ ハードウェアエラー番号の詳細

液晶表示器（LCD）に“Error X”で表示されるハードウェアエラーについて、詳細情報を次に示します。

本エラーが表示された場合は、担当保守員へご連絡ください。このとき、“Xの値”についても併せてご連絡ください。

| Xの値 | ハードウェアエラーの詳細 |
|---------------|--|
| 8 ~ 13 | DAT テープ垂直搬送機構の異常を検出しました（垂直搬送機構の引っ掛かりなど） |
| 16 ~ 21 | DAT テープ垂直搬送機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 24, 25 | マガジン装着状態に関し、装置内部で制御上の矛盾を検出しました |
| 32 ~ 38 | マガジン回転機構の異常を検出しました（回転機構の引っ掛かり等） |
| 40 ~ 46 | マガジン回転機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 48 ~ 55 | マガジン装着動作中、水平搬送機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 56 ~ 63 | マガジン装着動作中、マガジン搬送機構の異常を検出しました |
| 64 ~ 71 | マガジン排出動作中、マガジン搬送機構の異常を検出しました |
| 72 ~ 79 | 搬送部テープ保持機構の異常を検出しました |
| 80 ~ 87 | DAT テープ水平搬送機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 88 ~ 93 | あるべき DAT テープが存在しません |
| 96 ~ 101 | マガジン内にセットされた DAT テープの装着状態に関し、装置内部で制御上の矛盾を検出しました |
| 104 ~ 107 | マガジンが装着されているにもかかわらず、装置前面のドアが開いています |
| 112 ~ 117 | DAT テープが搬送部の保持機構から外れました |
| 120 ~ 121 | DAT テープのローディングに失敗しました（搬送機構の問題） |
| 128 ~ 132 | DAT テープ水平搬送機構の異常を検出しました（水平搬送機構の引っ掛かり） |
| 136 ~ 140 | DAT テープ水平搬送機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 144 | センサの異常を検出しました |
| 152 ~ 159 | マガジン排出動作中、水平搬送機構に対し動作を指示しましたが正常に動作しません |
| 160, 161 | DAT テープがドライブから異常排出されました |
| 168, 169 | DAT テープのローディングに失敗しました（ドライブの問題） |
| 176 | 装置前面ドアの異常を検出しました |
| 184, 192, 200 | 未定義または不当な内部コマンドを検出しました |
| 208 | DAT テープの搬送制御で矛盾を検出しました |
| 216 | 不当な SCSI コマンドを受信しました（LOG SENSE, LOG SELECT コマンド関連） |
| 224 | ホストコンピュータから 1 から 6 以外 DAT テープに関するコマンドを受信しました |
| 232 | DAT テープが見つかりません |
| 240 | 自己診断が実行されません |
| 248 | 表示パネルの異常を検出しました |

PRIMERGY

内蔵 DAT72 オートローダ
(PG-DTA103/PGBDTA103)
取扱説明書

B7FY-1431-01-00

発行日 2004年11月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の
権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

FUJITSU



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



大豆インキで印刷しています。

このマニュアルはリサイクルに配慮して製本されています。
不要になった際は、回収・リサイクルに出してください。

